



「コロコロコミック」編集長 益江宏典さん

ますえ・ひろのり / 1998年小学館入社。『コロコロコミック』で『でんぢやらすじーさん』、『デュエル・マスターズ』を担当。『てれびくん』で編集長を務めた後、2024年2月『コロコロコミック』11代目編集長に就任。

子どものころの本とわたし

幼少期の読書体験で一番古い記憶は、姉のススメで読みはじめた『おんぼろ宇宙船』シリーズです。その後『怪盗ルパン』シリーズをドキドキしながら愛読していました。子どものころ、本を読むときのこだわりは“環境作り”。チョコレートと紅茶を用意して、寝転がってひとり読む時間がとにかく楽しくて。マンガ体験は、親に禁止されている中、仲良くなった新聞配達員の方が、ジャンプをこっそり読ませてくれたのがはじまりです。禁止されていた反動で、マンガの世界にハマっていましたが、もし許してくれていたなら…今の職業には就いていなかったかも（笑）「マンガ編集者を目指そう！」と思ったのは、高校生になってから。当時、ジャンプ、サンデー、マガジン、スピリッツなど、週刊マンガ雑誌を読みあさっていました。大学時代は映画館で1年100本くらい映画を見ていました。

うですか？」や、登場人物たちの色々な想いのヒントになるアドバイスができるように、編集者もみんなと同じように日々勉強しています。例えば、ニュースやドキュメント番組を見たり、もちろんマンガもですが、様々な本をたくさん読んで、情報を集めています。マンガを読むときは、物語がわかりやすくはじまっているか、驚きがあるか、こんなピンチはすごい、など、1コマずつ考えながら読み進めてもらうと、もっとマンガを楽しむことができると思います。「コロコロコミック」は、今も昔も男子小学生のみなさんに愛されています。その理由のひとつが、「コロコロコミック」のマンガ家の先生は、子どもを想ってマンガを描いているからです。マンガ家先生と編集者は、子どもが読みたいくなるマンガを作るためのチームです。このチームの想いが、きつと読者の子どものために伝えているのだと思います。また、他にはない、ギャグをメインとしたマンガ雑誌というのも強みです。

ここからは、将来マンガ家を目指す人もいると思うので、マンガの「今」と「未来」について、お話ししたいと思います。昔の「コロコロコミック」は、お母さんが「そんなの見たらダメ！」と言うような笑いの強いマンガ雑誌でしたが、最近は、お母さんに怒られない、優しい笑いのマンガを、子どもたちも読みたがるようになりましました。一方で、今の子どもは、色々なことを知り、経験もしているのです。難しさや深みのあるストーリーを楽しむ側もクオリティを上げていく必要があります。さらに、みんながSNSを利用して、AIが進化してきていることもあり、これからのマンガ家はオリジナリティが求められると思います。もし、マンガ家を目指すなら、たくさん色々な経験をして、自分にかかけない物語を描いてみてください。そのために、まずは描く練習をしてみると、マンガを読むことも今まで以上に楽しくなると思いますよ。

もっと楽しくなる！
マンガの読みかた

はじめに、マンガを楽しく読んでもらうために、マンガを作る上で、大切にしていることをお話ししたいと思います。みなさんは、どんなマンガだと「読みたい！」と思いますか？マンガを作る私たちは「どうしたらみんなが読みたいマンガを作ることができるか」そんなことをつねに考えています。マンガを作るときに大切にしていること、ひとつ目は、物語の「はじまり」と「おわり」についてです。まず、読者がマンガに夢中になれるように、物語のはじまりはわかりやすくしています。そして、最後まで楽しんで読んでもらうために、物語のおわりで「え？」とか「そうだったんだ！」といった「驚き」を出したり、この物語で1番みんなに伝えたいことを伝えるようにしています。そのために、マンガ家の先生と編

Q & A コーナー

- 質問** おもしろい推せん文を書くためのコツはありますか。
益江さんの答え 感情を入れて書くことですね。「○○で、○○だから」とただ文字を並べるのではなく、「びっくりした」「すごく笑った」など、自分の感情を組み込むことで、読みやすい文章になります。そこに「なぜびっくりしたか」まで入れることができたらさらに◎ 例えば「こんなやつがクラスメイトにいて、僕は超嬉し！」と感情を入れ、その後「身長180cmで、みんなを笑わせてくれる優しいやつで…」と、説明をする。これで、イキイキとした文章になると思います。
- 質問** 将来マンガ家になるためには、何をしておくといいでしょうか。
益江さんの答え 喜怒哀楽の表情を描く練習です。マンガでとても重要なのが、表情なんです。マンガ家の先生でも、人物やキャラクターの表情を描くことが苦手な方もいます。イキイキとした表情を描けるようになるには、練習が必要。怒っている表情や悲しい表情をそれぞれ10パターンずつ、とにかくたくさん描けるようにしておく。色々な表情が描けるということは、マンガ家にとって“最大の武器”になります。

「コロコロコミック」の本の紹介



『運命の巻戻し』(小学館) 木村風太 作 2025年6月時点で最新巻は9巻
『月刊コロコロコミック 2025年7月号』(小学館)

書くことにチャレンジする君へ
まずはやっぱり、本を読んでみてください。本を読むことで、描写力を鍛えることができ、色々な引き出しを持つことができます。とにかくたくさん本を読むことをおススメします。もうひとつは、好きな作家さんの文章を丸写ししてみること。これも、描写力を高めるためには、ぜひチャレンジしてみたいです。そして最後に、日記を書くこと。「今日はこんな場所について、こんな風景を見た」「母親にこんなことを言われた」など、身の回りのことをできるだけ細かく、楽しみながら書いて、習慣化して欲しいです。



新入社員が描いたネーム。作家の気持ちを理解するために取り組んでいる。

集者はお互いのアイデアをぶつけ合い、話し合いをしていきます。マンガ家の先生には、描きたい物語があります。それをもっと面白い作品に導いていくのが編集者の仕事です。たまに喧嘩しながら、お互いを尊重して、マンガ家の先生のベストを引き出していきます。編集者の腕の見せどころですね（笑）初めて編集者となる新入社員には、マンガ家の先生と編集者の関係を学ぶために、マンガ家役になってもらい、実際にマンガの下絵になる『ネーム』を描く体験もさせています。これをするこ
とで、マンガ家側の気持ちも理解でき、どのように作品を作っていくかを学ぶことができます。
マンガを作るときに大切にしていること、ふたつ目。
マンガ家の先生に、「こんなピンチがあります」「あんな解決法はど